

～総会（5月19日）は、書面議決で5議案可決～

令和2年度通常総会は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の観点から会員の皆様に書面表決書を提出いただき、みなし総会としました。書面表決書の提出者231名のうち、賛成228名、反対2名の賛成多数で議案第1号から議案第5号まで原案通り可決成立いたしました。

～大きなぶりは中止します～

毎年6月に開催してきた大きなぶりは、新型コロナウイルス感染拡大防止緊急事態宣言が5月16日に解除されましたが、三つの密（密集・密閉・密接）を避けるために、中止させていただきます。

～生きもの調査は8月29日（土）の予定～

生きもの調査は、中茎アドバイザーと協議した結果、8月下旬になれば、新型コロナウイルス感染も収束にするだろうとの見方から8月29日（土）ちび川に集合し、捕獲、テントで観察する野外活動として実施する育成会親子での川遊びを計画しています。詳細については、役員会を開いて準備にあたり、後日お知らせします。

～7月12日のクリーン芳賀及び草刈の実施検討中～

第2回クリーン芳賀7月12日予定及び集落内草刈については、今後の新型コロナウイルス感染収束状況を注視しながら町農政課の指導の下に実施するか、役員会に諮って決定します。

～ホタルの群飛を見てみよう～

6月になるとホタルの飛ぶ季節となりますが、ハツ木地内では、田んぼ周りでホタルが見られなくなっています。東部の開田の湧水土側溝の堀には、少数のホタル群飛が見られるようです。

湿度の高い梅雨の時期に夜の7時半から9時頃まで、雄が光を出して飛び回り、雌は草群にいるそうです。光りながら群飛するホタル（ゲンジホタル）を見つけたら、いつ、どこで見つけたか、記録しておいてください。

お願いですが、本年度の保全会事業としてハツ木地内のホタル生息調査を行っていますので、ホタル群飛を見た方は、保全会役員に教えてください。

～ゲンジボタルの生活～

- 川に住む幼虫は、春4月に水中から陸上に這い出して、土手の土の中にもぐります。
- そこでさなぎになり（5月）6月上・中旬頃成虫になります。成虫になると、葉上の水だけで生活し、エサは食べません。成虫期間は10日前後です。
- 雄は群れ飛びながら（群飛）雌を見つけ交尾し、雌は2～3日後に卵を産みます。卵を産む場所は、川の土手でコケの生えている所に産卵します。
- 7月、産卵後20～30日で卵からかえった幼虫は、最初は小さなカワニナを食べて育ちます。
- 脱皮を繰り返して大きくなりながらだんだん大きなカワニナを食べ、次の年の4月まで9ヶ月を川の中で過ごします。



ゲンジボタルのおはなし



ゲンジボタルは、6月のころに田んぼのまわりで見ることができます。
ホタルは、雨や風や光や大きな音が苦手です。
だけど、人が住んでいる近くが大好きです。

● おすとめすの見分け方



おす

めす

ホタルはからだの小さいのが「おす」、大きいのが「めす」です。
それから、おしりの光るところでも見分けることができます。



光るところが大きいのが「おす」です。



光るところが小さくておしりのさきが赤いのが「めす」です。

● ゲンジボタルのくらし

① 6月ころの夜に、おすはめすと交尾をします。



② めすは、川のふちのコケなどにタマゴを生みつけます。

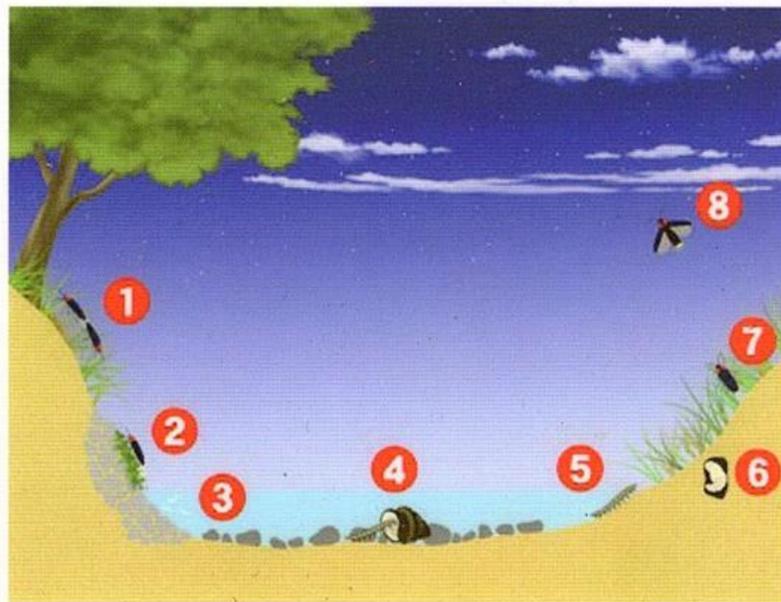


タマゴは、白くてとても小さいです。

③ タマゴから30日くらいでよう虫になります。



よう虫は、夏から春まで川の中で生活します。



④ よう虫は、カワニナという貝を食べて大きくなります。



川の中で20~30コのカワニナを食べてだっぴをしながら大きくなります。

⑤ 4月の雨の日に川から出ます。

⑥ 川から出ると、どての土の中にもぐってサナギになります。



⑧ 土の中から出ると、葉っぱについた水だけで生活します。
そして、10日くらいで死んでしまいます。



⑦ 6月のはじめころ、土の中から出てきます。

